香附子 CYPERI RHIZOMA

（基原）[1)2)4)5)7)9)14)16)17)18)20)21)22)]

カヤツリグサ科 *Cyperaceae* のハマスゲ *Cyperus rotundus* Linne の細根などを取り除いた根茎を乾燥したものである。

基原植物 ハマスゲは熱帯、亜熱帯に広く分布し、本州、四国、九州の向陽の砂質地及び、原野に産する。多年生草本で、細長い地下茎を出し、その先端に小形の根茎を生じ、翌年の冬芽をつくる。根茎にはヒゲ根があり、肉は白く香気がある。稈の高さ20～40cm、光沢のある深緑色の線形で幅2～6cmの葉を数枚叢生し、基部は鞘となり、茎を包む。7～10月ごろ、花茎を出し、茎項に狭線形の２～３枚の総苞葉を生じその中心から長短ある花序の枝数本を出し、濃茶褐色で線形の小穂が集合して付ける。

根茎の収穫は、春夏秋冬いずれでもよいとされているが、一般には秋～翌年の春にかけて、根茎を掘り取り、火でひげ根と鱗葉を焼き去り、しばらく熱湯の中へ入れるか、せいろで充分蒸した後、取り出して日干しする。さらに竹篭の中へ入れつき、すり合わせる。竹のふるいで、葉や細毛をふるい去ったものが「光香附」である。また、火で焼かず、根茎を麻袋の中へ入れ、ついたり揉んだりした後、日干ししたものもある。石臼でひいて毛や皮を取り除いたものは、「香附米」という。

（由来）[1)2)4)7)9)14)15)17)22)]

『名医別録』の中品に「莎草」の名で収載されており、『唐本草』で初めて「莎草根」を香附子と名付けられた。また別名「雀頭香」とあり、『江表伝』に「魏の文帝は使を呉に遣して雀頭香を求めた」とあるのがこれである。『図経本草』には草附子、水香稜、水巴戟、水莎、莎結 、続根草と別名が多い。李 時珍は「別録にはただ 莎草とあるだけで、苗を用いるとも書いていないが、後世では皆香附子という名でその根を用いており、莎草という名のあることを知っていない。……その根は互いに連続して附いて生じる。香に合わせるものだから香附子という。上古にはこれは雀頭香といった。……その葉は三稜や巴戟に似て下湿の

地に生じるものだから水三稜、水巴戟などの名がある」といっている。

これはインドでも古くから薬用とされており、サンスクリットで Musta と称し、利尿、通経、駆虫、発汗、収斂、興奮、胃腸薬として用いられ、『金光明経』にも「目卒哆」（Musuita）の名で収載されている。
また、『本草綱目』では雷公頭、『陸川本草』では猪通草茹、『中薬材手冊』では苦姜頭という名でも収載されている。

（性状）[1)4)7)15)16)21)22)]

紡錘形を呈し、長さ1.5～2.5cm、直径0.5～1cm で一端にわずかに茎を残す。外面は灰褐色～灰黒褐色で、５～８個 の不整な輪節があり、その部分に毛状になった線維束がある。質は固く、横切面は赤褐色～淡黄色で、ろうのようなつやを帯び、皮層部の厚さは中心柱の径とほぼ等しいか又、わずかに薄い。横切の赤褐色のものは根茎を蒸してから干したもの、色の薄いものはそのまま干したものである。これをルーペ視するとき、周辺には線維束が褐色の斑点として輪状に並び、皮層部にはところどころに線維束が赤褐色の斑点として、また分泌細胞が黄褐色の微小な斑点として多数存在する。中心柱には多数の維管束が点又は、線として散在する。

特異なにおい及び、味がある。

（産地）[1)4)7)14)15)16)]

日本では鹿児島からごくわずかに産出するが、市場品のほとんどは中国、韓国、ベトナム、北朝鮮からの輸入品で需要がまかなわれている。中国における主産地は山東、浙江、福建、湖南、河南の諸省で、このうち湖南、河南の両省に多く産出する。また山東省産のものを「東香附」浙江省産のものを「南香附」といい、両者とも品質が良いとされている。年間の輸入量は約５０トンである。

（品質）[1)4)7)15)16)18)22)]

よく肥大した根茎で、内部が淡色、香味の強いものが良品とされる。折ったとき内部の黒っぽくなっているものや、細いものは良くない。

また、表面をみがいて、ひげ根や鱗葉を取り去ったものが良品である。

砕けたものが小粒のものを「ジャリ香附」といい、洗浄したものを「キヌカツキ」といい、いずれも下品である。

（成分）[1)2)4)5)7)14)15)16)16)20)22)]

精油成分（0.6～1%）：α-cyperone（主成分）
cyperotundone,cypelone,cyperol,isocyperol,
sugetriol,sugeonol,kobusone,isokobusone,
pachchoulenyl acetate,sugeonyl acetate などの
トリテルペノイド

中国産 → cyperene,β-seline,α-cyperone,β-cyperone,patchoulenone
などのセスキテルペン類
limonene,1,8-cineol,β-pinene,p-cymene,caphene などの
モノテルペン類

日本産 → cyperene,α-cyperone,cyperotundone,cyperolone,cyperol,
isocyperol,sugeonol,sugetriol,α-rotunol,β-rotunol,
kobusone,isokobusone

インド産 → （＋）-copadiene,（＋）- epoxyguaiene,（－）-rotundone,
cyperoloneのほか２７種の成分が存在することをガスクロマトグラフィーにより検出している。

トリテルペノイド ：3-O-(2-rhamnosylglucosyl)-oleanolic acid
oleanolic acid

その他 ：ブドウ糖,果糖,脂肪油（リノール酸,リノレン酸,オレイン酸,
ミリスチン酸,ステアリン酸のグリセリド

（現代薬理）

薬理作用の研究報告は少ないが、以下のような作用が知られている。

【子宮収縮の抑制作用】[2)5)9)14)]

流エキスは家兎、犬、猫、などの摘出子宮に対して収縮作用、子宮筋の緊張を弛緩させる作用があり、これは受胎、未受胎動物に関係ない。この作用は当帰によく似ているが、それよりも弱い。

【プロスタグランジン生合成阻害作用】[1)4)5)20)21)]

熱水抽出エキスは、プロスタグランジンＥ$_2$の生合成を強く抑制した。その主な活性は α-cyperone, isocyperol, cyperenone によるものである。

【鎮痛作用】[2)9)14)15)21)]

エタノールエキスはマウスの疼痛閾値を高める。

【皮膚障害抑制作用】[5)]

α-cyperone はモルモット背部皮膚に紫外線照射後誘導される紅斑を抑制した。

【抗マラリア作用】[20)]

香附子から得られた不安定な化合物 β-selinene の自動酸化化合物（混合物）が強い抗マラリア作用を示した。

【抗菌作用】[2)7)14)]

根茎には抗菌作用があり、その抽出物はある種の真菌に対して抑制作用がある。試験を行った１４種の菌のうち、*Sclerotina Sclerotiorum*, *Phytophthora capsici*, *Collectorichum chardonianum*, *Aspergillus niger* の４種に有効だったという報告がある。

【平滑筋に対する作用】[1)4)7)20)21)]

エタノールエキス はモルモット摘出回腸で抗ヒスタミン作用、抗バリウム作用を示す。

その他、香附子に含有される油様物質に女性ホルモン様作用があると言われている。[7)]

（古典的薬効）

薬味：微甘[18]・微苦・辛[2)4)5)9)15)18)]

薬性：平[2)4)7)15)18)]

帰経：肝・三焦経[2)7)18)]

薬能：疏肝理気・調経止痛[2)5)7)]

【名医別録】[2)7)16)]

味甘微寒、無毒。胸中の熱を除き、皮毛を充たす。久しく服すれば人を利し、気を益し、鬚眉を長ずる

【本草綱目】[7)16)]

三焦を利し、六鬱を解し、……吐血、下血、尿血、婦人の崩漏、月経不順、産前産後のあらゆる病を止める

【一本堂薬選】[4)5)]

血液のうっ滞を除き、気血うっ滞による痛みを治す

【薬性提要】[16)]

一切の気を去り、鬱を開く

【中薬大辞典】

理気解鬱、止痛調経。治肝胃不和、気鬱不舒、胸腹脇肋脹痛、痰飲痞満、月経不調、崩漏帯下

李　時珍は次のように言っている。

「生のものは胸膈に上行して外は皮膚に達し、熟せるものは下降して肝、腎に走って外は腰、足に徹し、黒く炒ったものは血を止め、童尿に浸して炒ったものは血分に入って虚を補い、塩水に浸して炒ったものは血分に入って燥を潤し、青塩で炒ったものは腎気を補い、酒に浸して炒ったものは経路にめぐり、醋に浸して炒ったものは積聚を消し、姜汁で炒ったものは痰飲を化し、人参、朮と配合すれば気を補い、当帰、芐（地黄）と配合すれば血を補い、木香と配合すれば滞を流し、中を和し、白檀香と配合すれば気を理し、脾を醒し、沈香と配合すれば諸気を升降し、芎藭、蒼朮と配合すれば、総ての諸鬱を解し、梔子、黄連と配合すれば能く火熱を降し、茯神と配合すれば心、腎を済い、茴香、破胡紙と配合すれ

ば気をひいて元に帰し、厚朴、半夏と配合すれば壅を決し、脹を消し、紫蘇、葱白と配合すれば邪気を解散し、三稜、莪朮と配合すれば積塊を消磨し、艾葉と配合すれば血気を治し、子宮を暖める。

（臨床応用）

香附子は、辛散・苦降・甘緩で芳香走竄し、平性で寒熱に偏らず、理気の良薬であり、暢すれば血行は通し、気血が疎泄調達すると月経は調い、疼痛が止むので、調経止痛の要薬でもある。それゆえ、肝欝気滞による胸脇脘腹脹痛・月経不調・経行腹痛および胎産諸病に対する常用薬であり、「気病の総司、女科の主帥」と称されている。

【止痛作用】[2)19)]

頭痛や筋肉痛、腹痛などさまざまな痛みに用いる。

・頭痛には川芎、白芷などと配合する → 川芎茶調散
・ストレスによる肩こりには烏薬・青皮などと配合する → 治肩背拘急方
・五十肩など肩関節の痛みには蒼朮・羌活などと配合する → 二朮湯
・気が欝して脇腹が痛む・腹満・憂鬱のときには柴胡・川芎などと配合する → 柴胡疎肝湯
・気滞により、上腹部が痛く、呑酸・嘔吐・噯気・食欲不振などの症状を伴うとき川芎・蒼朮・山梔子などと配合する → 越鞠丸
・冷えなどで急に胃が痛むときには良姜・桂枝などと配合する → 良附湯

【理気作用】[2)4)7)]

気が塞がったり、イライラしたり、胃腸機能が悪いときに用いる。

・風邪気味で気分が悪く、みぞおちが痞えるときには蘇葉・陳皮などと配合する → 香蘇散
・更年期障害などで、のぼせや眩暈を訴えるときには当帰・川芎などと配合する → 女神散
・ストレスなどで食欲がなく、胃が痞え、下痢や嘔気があるときは六君子湯に配合する → 香砂六君子湯

【調経作用】[2)4)7)9)19)]

月経不順や月経痛に用いる。

・顔色が冴えず、生理不順や産後の肥立ちが悪いときには当帰・地黄・白朮などと配合する → 芎帰調血飲・香附芎帰湯

・下腹部に膨満感があって、生理痛が強いときには、桃仁・紅花などと配合する → 膈下逐瘀湯

・肝気欝結してヒステリックな状態・抑うつなどの精神的原因のある生理痛のときには、四物湯を配合し、烏薬・延胡索を加える

・このほか、脇痛・咳嗽・悪寒がない・潮熱など湿温の症状には旋覆花などの行気琉肝解欝の薬物を配合する → 香附旋覆花湯

（禁忌）[4)9)14)18)]

・血虚内熱・頻発月経には使用してはならない。

・芳香辛散であるから、単独で用いたり、多量・長期に使用すると、気血を耕損する恐れがある。

（民間療法）[21)22)]

中国で行われている。

【ムカデの咬傷】

香附子をよく噛んで患部に塗ると、たちどころに効果あるという。

【髭を黒くする】

香附子を程良く炒って、その三両に青塩と生姜各半両を末にして毎日塗布する。

（消生法による）

【酒の二日酔い】

・香附子・縮砂・甘草を炙ってそれぞれの四両を粉末にし、白湯に塩を入れて服用すると良いという。

【頭痛】

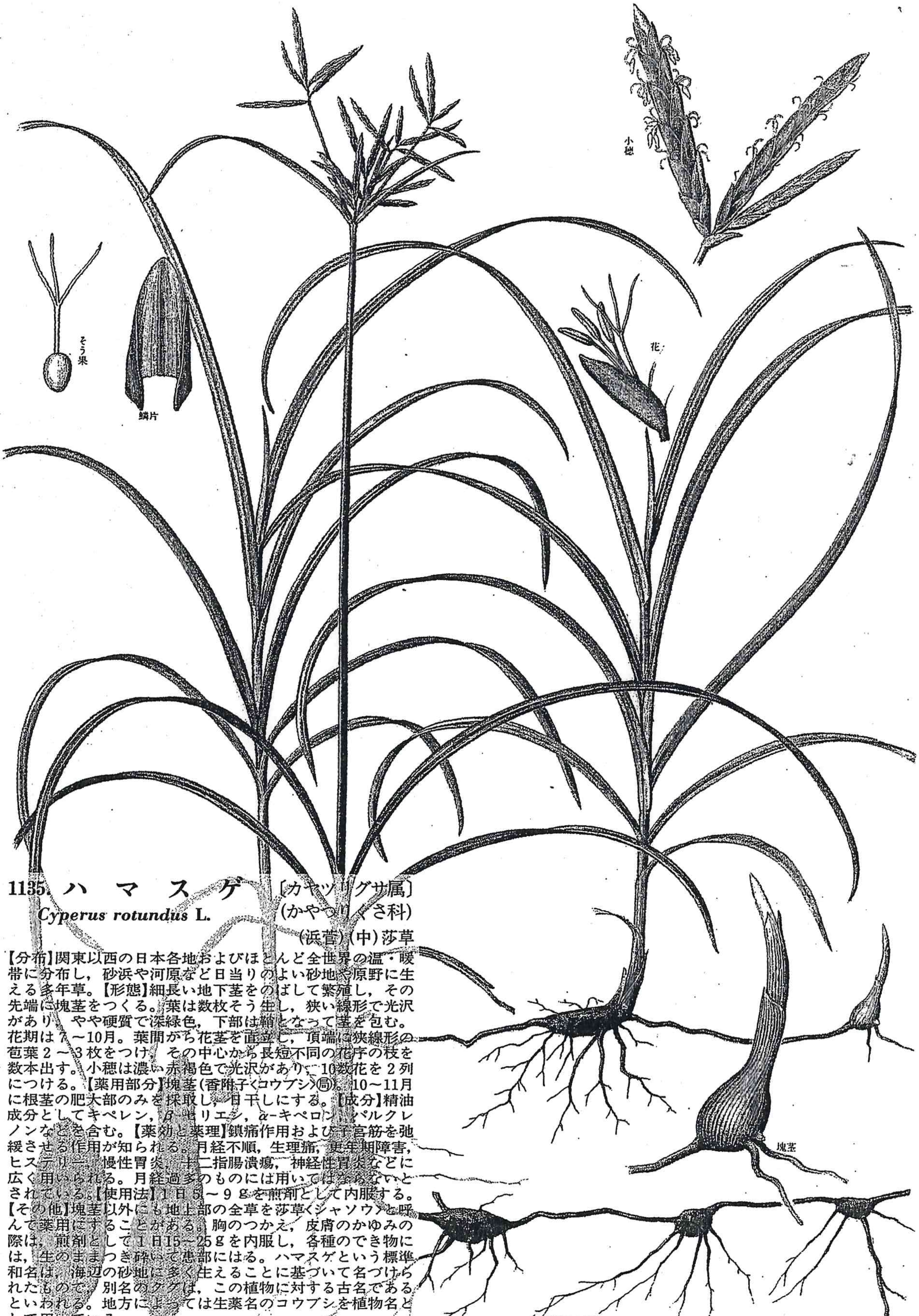
・香附子に薄荷葉を加えて煎じて服用すると良いという。

（食用）[21)]

救荒植物として 肥大した根茎をデンプン原料として、食料にした記録もある。

（参考文献）

１）日本薬局方　第十三改正	D－３３９～３４０
２）原色和漢薬図鑑（上）	p１２６～１２７
４）ウチダ和漢薬の生薬資料	
５）生薬ハンドブック	p５９～６０
７）漢方製剤の知識　Vol.21 No.10＆ Vol.34 No.7,8	p５２～５４
	p９４～９５
９）漢薬の臨床応用	p２２０～２２１
１４）和漢薬物学	p３０４～３０５
１５）漢方のくすりの事典	p１１０～１１２
１６）中薬大辞典	p７５０～７５３
１７）原典に拠る重要漢薬　平成薬証論	p９８～１０１
１８）中医臨床のための中薬学	p２４７～２４８
１９）原色牧野和漢薬草大図鑑	p５８５．５９９
２０）漢方薬理学	p３７７
２１）日本薬草全書	p５２３～５２４
２２）和漢薬の選品と薬効	p３６４～３６７



1135. ハ　マ　ス　ゲ　〔カヤツリグサ属〕

***Cyperus rotundus* L.**　(かやつりぐさ科)

(浜菅)(中)莎草

【分布】関東以西の日本各地およびほとんど全世界の温・暖帯に分布し，砂浜や河原など日当りのよい砂地や原野に生える多年草。【形態】細長い地下茎をのばして繁殖し，その先端に塊茎をつくる。葉は数枚そう生し，狭い線形で光沢があり，やや硬質で深緑色，下部は鞘となって茎を包む。花期は7～10月。葉間から花茎を直立し，頂端に狭線形の苞葉2～3枚をつけ，その中心から長短不同の花序の枝を数本出す。小穂は濃い赤褐色で光沢があり，10数花を2列につける。【薬用部分】塊茎(香附子〈コウブシ〉㊐)。10～11月に根茎の肥大部のみを採取し，日干しにする。【成分】精油成分としてキペレン，β-セリエン，α-キペロン，パルクレノンなどを含む。【薬効と薬理】鎮痛作用および子宮筋を弛緩させる作用が知られる。月経不順，生理痛，更年期障害，ヒステリー，慢性胃炎，十二指腸潰瘍，神経性胃炎などに広く用いられる。月経過多のものには用いてはならないとされている。【使用法】1日5～9ｇを煎剤として内服する。【その他】塊茎以外にも地上部の全草を莎草〈シャソウ〉と呼んで薬用にすることがある。胸のつかえ，皮膚のかゆみの際は，煎剤として1日15～25ｇを内服し，各種のでき物には，生のままつき砕いて患部にはる。ハマスゲという標準和名は，海辺の砂地に多く生えることに基づいて名づけられたもので，別名のクグは，この植物に対する古名であるといわれる。地方によっては生薬名のコウブシを植物名として用いている。

香蘇散・香附子

薬局文献検索資料

１９９８．１２．７

生薬の薬理から漢方の薬効へ-香附子-

生薬：香附子
成分：
処方：

雑誌名：THE KAMPO 12巻 1994年 69号 26頁 通算 頁

報告： 標的器官：
剤形： 投与経路： 投与量：

併用薬：

内容：①成分②薬理作用③薬能④薬理から薬能へ

耳疾患に対する香蘇散の効果
-鈴木　洋-

生薬：
成分：
処方：香蘇散

雑誌名：漢方診療　8巻　1989年　1号　43頁　通算　頁

報告：治験例　標的器官：筋・感覚器系
剤形：エキス剤　投与経路：ヒト経口　投与量：7.50g/day

併用薬：

内容：①症例報告：耳疾患に対し香蘇散が有効であった5症例②香蘇散について②香蘇散と耳疾患：香蘇散は滲出性中耳炎や感冒の後の耳管狭窄、あるいは自律神経障害と関連した様な場合の耳鳴、閉塞感症状に効果が有る事が推察される③香附子について

「返品」；副作用情報２６０

生薬：
成分：
処方：小柴胡湯合香蘇散

雑誌名：東医研データ　巻　1994年　***号　***頁　通算　頁

報告：副作用　標的器官：感染・免疫系
剤形：煎剤　投与経路：ヒト経口　投与量：

併用薬：

内容：膠原病[s25.5.6、男]；上記処方後、掻痒感、便秘が発現する。
その後、小柴胡湯去生姜加黄連3地黄2茯苓5牡丹皮4に変更となった。
（丁）

耳鳴の漢方治療
-大西　信治郎-

生薬：
成分：
処方：釣藤散、苓桂朮甘湯、大柴胡湯、香蘇散、牛車腎気丸

雑誌名：現代東洋医学　11巻　1990年　3号　17頁　通算　頁

報告：治験例　標的器官：筋・感覚器系
剤形：エキス剤　投与経路：ヒト経口　投与量：

併用薬：カルバマゼピン、メコバラミン

内容：①耳鳴を伴う疾患②耳鳴の発生機序③耳鳴の漢方療法：釣藤散,苓桂朮甘湯,香蘇散,牛車腎気丸による治験報告④西洋薬との併用⑤症例報告；メニエール病患者2例-牛車腎気丸投与後、耳鳴の持続時間の減少など、症状の軽快が認められた

老年痴呆の漢方治療
-牧田　憲太郎-

生薬：
成分：
処方：十全大補湯、香蘇散、桂枝加竜骨牡蛎湯

雑誌名：現代東洋医学　12巻　1991年　12号　309頁　通算　頁

報告：治験例　標的器官：脳・神経系
剤形：　投与経路：ヒト経口　投与量：

併用薬：

内容：症例報告：痴呆（78歳、女）子宮癌とその放射線療法により心神の働きを失い痴呆の症状が現れたものに対して、上記の処方により気血両虚、鬱状態、を改善し、更に移精変気の法で顕著な症状の好転をみた。
参照；難病、難症の漢方治療第4集（臨時増刊号）

自律神経失調症状に随伴したいわゆる万年カゼの１例
-丹羽　幸吉-

生薬：
成分：
処方：香蘇散

雑誌名：漢方診療　12巻　1993年　1号　37頁　通算　頁

報告：治験例　標的器官：脳・神経系
剤形：エキス剤　投与経路：ヒト経口　投与量：　7.50g/day

併用薬：

内容：症例報告：自律神経失調症[58歳、女]香蘇散投与により、神経症状及びカゼの改善を認めた。

香蘇散が著効した２０数年の罹病歴を有する過敏性腸症候群の１例
-中島　滋-

生薬：
成分：
処方：香蘇散

雑誌名：漢方診療　11巻　1992年　2号　41頁　通算　頁

報告：治験例　標的器官：脳・神経系
剤形：エキス剤　投与経路：ヒト経口　投与量：　7.50g/day

併用薬：ロペミン

内容：症例報告：IBS[63歳、女]香蘇散投与翌日より著効が認められ、又腹痛便通、うつ傾向などの症状における著しい改善点も同時に報告された。

「返品」：副作用情報６１

生薬：
成分：
処方：加味逍遥散料合香蘇散

雑誌名：東医研データ　巻　1990年　号　頁　通算　頁

報告：副作用　標的器官：感染・免疫系
剤形：煎剤　投与経路：ヒト経口　投与量：

併用薬：

内容：花粉症、冷え性[s26.1.28、女]：上記処方後、くしゃみ・鼻汁・鼻閉・目のかゆみを認める。その後、柴胡桂枝湯合四苓湯にしたところ症状が安定した。（矢船）

「返品」：副作用情報２

生薬：
成分：
処方：小柴胡湯合香蘇散

雑誌名：東医研データ　巻　1989年　号　頁　通算　頁

報告：副作用　標的器官：脳・神経系
剤形：煎剤　投与経路：ヒト経口　投与量：

併用薬：

内容：耳鳴り[T11.3.9、女]：上記処方後、頭痛がするようになった。防風通聖散、八味丸、潤腸湯を服用するものの軽快しなかった。（村主）

香蘇散が奏功した嗅覚脱失症の２例
-服部　紀代子-

生薬：
成分：
処方：香蘇散

雑誌名：日本東洋医学雑誌　45巻　1994年　1号　141頁　通算　頁

報告：治験例　標的器官：筋・感覚器系
剤形：エキス剤　投与経路：ヒト経口　投与量：7.50g/day

併用薬：

内容：症例報告：嗅覚脱失症(42歳、女)(75歳、男)香蘇散投与により、症状の改善が認められ、嗅覚脱失症に対する本方の有用性が認められた。

頭痛の３症例
-新井　信-

生薬：
成分：
処方：呉茱萸湯、釣藤散、香蘇散

雑誌名：漢方の臨床　41巻　1994年　3号　45頁　通算　頁

報告：治験例　標的器官：脳・神経系
剤形：エキス剤　投与経路：ヒト経口　投与量：7.50g/day

併用薬：

内容：症例報告；①片頭痛(29歳、女)に対して呉茱萸湯②高血圧を伴った頭痛(50歳、女)に対して釣藤散③気鬱の頭重感(27歳、男)に対して香蘇散、以上①－③漢方薬投与の結果、症状の改善が認められた。